

地産地消のみ力

出雲市立大津小学校 五年 松浦遙音

みなさんは、美味しきね認証マークを知っていますか。

五年生になって、家庭科の授業が始まりました。私は、ゆで野菜の調理実習の後、家族のために、ほうれん草のおひたしやポテトサラダのサンドウィッチを作りました。母の買い物につき合うのは、いつもはめんどうくさく、食材をじっくり見ることがありません。

でも、実際に自分が作るとなったらそうはいきません。ほしい野菜とにらめっこ。新せんだ野菜を探していると、産地や生産者が記されたシールの他に、しまねっこと水引のシールがけられている野菜を見つけました。

私は、今年の食の学習で、地産地消の学習をしたことを思い出しました。その学習で、しまねっこのシールは、美味しきね認証マークであることを知りました。そのマークは、安心安全な食材を家庭にとどけるために百以

上のルールを守って作っていることを島根県  
がみとめた印だそうです。食材の安全だけで  
はなく、働く人の安全や周りのかん境を守る  
ことにも気を配って食材を作っておられます。  
今年の夏、私はきゅうりといんげん豆を育て  
ました。大雨や暑さ、カメムシやマブラムシ  
などの虫のえいきょうで、うまく育てられま  
せんでした。その経験から、おいしさや安全  
のためにさまざまなことに気を配っておられ  
る農家のみなさんはすごいと感じました。

社会科の授業では、スーパーの広告にのっ  
ている野菜の産地調べをし、島根県や鳥取県、  
西日本の物が多いことに気づきました。そし  
て、給食センターのホームページをみると、  
私たちの給食は、出雲や島根産の食材を多く  
使っておられることも分かりました。

私け、なぜ地産地消が広がっているのか考  
えました。地産地消のみ力は、地いきの生産  
者が愛情をこめて作ってくれた食材を新  
せんな状態で食べられることです。そして、

食材を運ぶための時間も短しゆくされ、はんばい期間も長くすることができずSDGsの「つくる責任、つかう責任」につながります。また、産地から地いきまでの運ぶきよりが長いと、トラックや飛行機などにたくさんのおねん料を使うので、地産地消によって、温室効果ガスをへらすことができ、SDGsの「気候変動に具体的な対策を」にのうけんできます。

おいしい食材を守っていくためには、農家のみなさんといっしょに、私たちも努力したいといけないと思います。心をこめて作ってくださった食材をむだなくいただくだけではなく、作る側の工夫や努力をもっと知ることが大切だと思います。そして、学校給食に使われた食材について関心をもち、五感を使っで給食を楽しみ、味わって食べていきたいです。また、自分が生産した新鮮な食材や出雲産の食材で料理を楽しみ、私が作った料理をみんなにふるまいたいです。